



日本初の鉄道が
開業した日を記念して
10月14日は「鉄道の日」

神奈川には、多くの木造駅舎があります。

立ち止まってよく見てみると

それぞれの駅舎には個性があり

その魅力も様々です。

素朴で温かい木造駅舎を

ゆっくりめぐって行きましょう。

むかし、鉄道の駅は「停車場」と呼ばれていました。全国に鉄道網が完成していく明治時代末期まで、地方の交通は徒歩か馬車が用いられ、街道の馬替所（馬を交換する施設）は「駅通^{えきてい}」と呼ばれていました。駅の字に「馬」が入っているのはそのためです。

つまり駅通の衰退によって、停車場が「駅」になった歴史があります。また鉄道の停車場そのものが、それまでの日本にはなかったものでした。

江戸時代には駅舎のように、身分に関係なく土足で立ち入り自由の建物はほとんどありませんでした。鉄道そのものが「運賃を払えば、誰でも利用できる」という、封建制度では考えられない近代の装置だったからです。

そんな文明開化のシンボルのような陸蒸気が走り、洋館の停車場が最初に登場したのが明治5年の新橋〜横浜間です。江戸時代より横浜に外国人居留地のあった神奈川は、鉄道によって人々が西洋文明を体感した最初の地だったといえるでしょう。

また、鉄道は日本人の暮らしを大き



杉崎 行恭 すぎざき ゆきやす…フォトライター

1954年、兵庫県に生まれる。東京写真大学短期大学部写真応用科で学び、現在カメラマン兼ライターとして旅行本や鉄道雑誌を中心に執筆。鉄道趣味の世界では、駅と駅舎の専門家として知られる。

主な著書に、駅の構造と歴史をまとめた『駅舎』（みずうみ書房）、駅舎ベスト100を選んだ『日本の駅舎』（JTB）、『駅旅のススめ』（JTB）、『旅鉄 BOOKS 025 木造駅舎紀行 200選』（天夢人）、『訪ねておきたい名駅舎 絶滅危惧駅舎』（二見文庫）、『廃線駅舎を歩く』（交通新聞社）など多数。また『日本の鉄道 車窓絶景 100選』（新潮新書）の選者の一人でもある。
<https://www.facebook.com/yukoiyasu.sugizaki>

『旅鉄 BOOKS 025 木造駅舎紀行 200選』（天夢人）

〈横須賀駅〉（JR 横須賀線／横須賀市東逸見町）1889（明治 22）年に開業。1940（昭和 15）年現在の駅舎（3代目）に改築。「階段が一つもない平坦な、人にやさしい駅」として、関東の駅百選に認定される。



【神奈川散歩・一日体験】旅サポーターと行く

神奈川の 〈木造駅舎〉をめぐる

〈大磯駅〉（JR 東海道線／中郡大磯町）三角屋根の駅舎は、1924（大正 13）年竣工の 3 代目。2008（平成 20）年、エレベーター・エスカレーターを設置、バリアフリー化されている。

杉崎 行恭 さん…フォトライター

イラスト：堀口 順一郎

